

特集 窓

内外の木製サッシ

西ドイツの木製サッシ

木製サッシは、アメリカ、ヨーロッパ等では、かなり普及しており、特に北欧、カナダ等、寒冷地では、その使用頻度は非常に高く、気象条件が比較的近い北海道においては、見習うべき点が多く見られます。そこで、西ドイツの文献^{*)}から、内開き窓の例を引用して、その特徴を検討してみましょう。

縦断面と横断面図を見て下さい。この窓の特徴は、基本的に部材寸法を80mm×68mmという、比較的大断面の材料を用いて、断熱性を高めている、という点でしょう。欧米では、日本と異なり、木部材を大断面にして、重厚な感じにすることを好むのでしょう。

また、同時に、外枠、内枠とも、同一断面寸法部材からの削り出しであるので、材料調整作業はやや簡略化できる、と考えられます。しかし、それぞれの部材は異なる断面形状をしており、ま

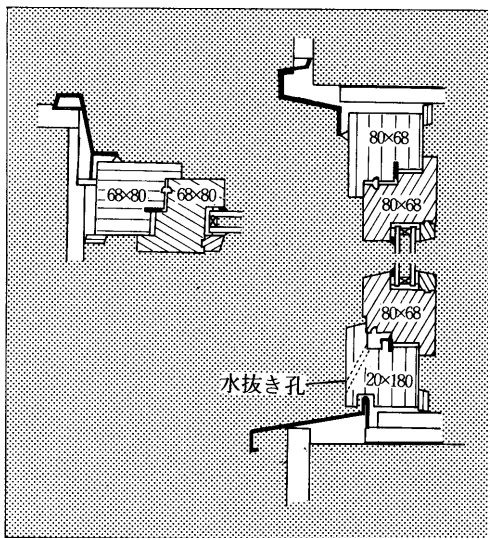
た、やや複雑な切り込み等があり、かえって若干の手間がかかるかも知れません。

この窓では、気密をとるために、外枠と内枠の圧着のためゴム製のシール材を使用しています。ただ、内開き窓では、この方法のパッキン材を使用した場合、外から強い風圧力がかかった時、ゴムシールと内枠にすき間ができ易くなることが予想されます。

ガラスは、ペアガラスを用いて断熱性の向上をはかっています。また、ガラスは、内側から押さえ縁を用いて固定し、外側の四周にビードをまわして、同時に気密も確保します。

水仕舞は、上部ひさし及び側面・下面の水切りにトタン板を使用して、水切りを良くすると同時に、木部を被覆して耐水性を高めるよう配慮されています。また、外枠と内枠の間のすき間にエアトラップを、また、外枠下面には、エアダムを作り、空気だまりを設けることによって、その部分の空気を外気圧より高めて、外気が雨水が直接流入することを妨げています。さらに、外枠下部材には、排水溝からの水抜き孔が設けられ、開閉時に室内に水が入らないよう、排水の配慮がなされています。なお、その他の例を16頁に写真で示す。

(林産試 石井)



^{*)}Meyer - Bohe, Walter ; Fenster , Alexander
Koch GmbH . 1973

西ドイツの木製サッシ

その他の例

